

なるほどのじ



学校教育担当  
キャラクター  
甲斐善之助

# 西部教育局からのお役立ち情報

## 今月のトピック紹介版

10月号

### 全国学力・学習状況調査結果公表 ～2学期の具体的なアクションで学力向上を図る！～

全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。調査結果についての分析・考察を通して、自校の課題を明確にし、子供の学力向上を保障する具体的な取組を、学校全体で進めることが大切です。9月26日に開催した研究主任等情報交換会では、西部地区の学力の現状を共有し、すべての子供が学びきる授業づくりについて提案させていただきました。学校内で研究主任の先生と情報を共有の上、今後、学校全体で着実に取り組む具体的なアクションについてご検討ください。

### 【小学校国語】国語の能力を確実に身に付ける授業づくり

2学期にどの学年でも扱われる文学的な文章の指導について提案をしています。文学的な文章を扱う場合、読み取りや感想の発表に終始しがちな現状があります。学びのプロセスの構成や学習評価の視点を生かして、各学年に設定されている文学的な文章にかかわる国語科の指導内容に即した展開が求められます。4年生の教材について具体を紹介していますので、小学校はもとより中学校国語科の先生もご活用ください。

### 教師の想像力が未然防止力を高める！！ ～「チーム学校」として機能する～

2学期は生徒指導上の様々な問題の発生頻度が高まります。教師と子供、または子供同士の人間関係を構築するうえでのチャンスでもあります。子供や事案への対応具合によっては思わぬ方向へ子供や集団を導いてしまう危険性もあります。教師には子供の行動や事案そのものについてのみに着目するのではなく、想像力を働かせて行動や事案の背景を想定する力が求められます。本号では、よくある場面を取り上げ、具体的な対応策について紹介しています。職員室で話題にいただき、生徒指導の力量向上やチーム学校としての対応力の向上にご活用ください。

### 主体的に学校生活を送る子供の育成を就学前から目指す！ ～より充実した幼保小の連携の実現に向けて～

10月から11月にかけて行われる就学時健康診断は、入学までに新入学児童や保護者の状況を把握することができる貴重な場です。入学前から学校が保護者とつながることは、不安が高く支援を要する保護者に安心感や信頼感を構築することにつながります。本号では、西部地区における学校と園の連携モデル事例を紹介していますので、是非ご活用ください。

# 【小学校国語】国語の能力を確実に身に付ける授業づくり

文学的な文章(4年生)  
の実践をもとに

2学期の国語では、文学的な文章を扱う学習内容が多くあります。「内容を読み取るだけ」「感想を言い合うだけ」に陥らず、文学的な文章を通してねらう国語の能力を確実に身に付ける授業づくりが必要です。付けたい力を明確にし、必要があれば言語活動を選定し、評価の具体を示し、学びを生かすという流れを確実に往還していくことが、児童の確かな読みの力と豊かな想像力を育みます。本号では、「変身ブックで本の紹介をしよう」(4年生)の実践を例にして紹介しています。2学期の授業研究にお役立てください。

## ポイント① 付けたい力の明確化

「C読むこと」の学習内容は、音読、文章の解釈、自分の考えの形成、目的に応じた読書など様々です。

単元を構成する際には、**児童の実態**と**学習指導要領**を抛りどころにして、当該単元で付けたい力を明確にする必要があります。

登場人物の気持ちの変化はなんとなく読み取れる子供たちだな。でも、叙述を基に想像することはまだ難しいな。

児童の実態と文学的な文章の解釈に関する系統性とを踏まえ、発達段階に応じた単元目標を設定しましょう。

学習指導要領「C読むこと」の系統表より

登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ**優れた叙述**について**自分の考え**をまとめる。

高

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて**叙述を基に**想像して読む。

中

場面の様子について**登場人物の行動を中心**に想像を広げながら読む。

低

4年生は  
ここ!

紹介したい本を選び、登場人物の性格や気持ちの変化について叙述を基に想像し、中心人物の変化のわけを考えることができる。(指導事項 C読むこと ウ)



- 単元を通して付けたい力はどのように設定したらよいのかな。→ポイント①へ
- 言語活動はいろいろあるけれど、どれを選んだらよいのかな。→ポイント②へ
- 付けたい力が本当に身に付いているのかどうかははっきりしないな。→ポイント③へ
- 単元の中で完結してしまい、日常生活につながらないな。→ポイント④へ

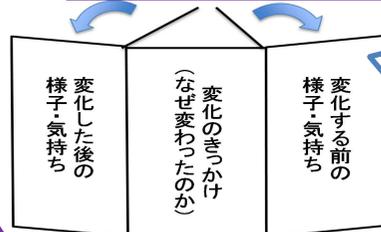
## ポイント② 言語活動の選定

単元を通して付けたい力と、それぞれの言語活動がもつよさや特徴との整合性を考えて選定しましょう。

教材文や選んだ本の中心人物の気持ちが、どのように、なぜ変化したのかを子どもが叙述を基に考えることができるようにしたいな。

気持ちが変化する前と変化した後の叙述を書き出し、比較して考えられるような言語活動を選びましょう。

「変身ブック」で本の紹介をしよう



リーフレット形式にすることで、必要な叙述を厳選したり、要約したりする能力の育成も期待できます。

## ポイント③ 評価

目指す児童の姿を明確にし、毎時間の見取りを大切にしましょう。児童の実態と合わない場合は、言語活動を修正する必要もあります。



第二次の4時間目は、「変身ブック」の真ん中のページの記述を評価しよう。

《判断のポイント》【おおむね満足できる状況】

叙述を基に中心人物の気持ちの変化とそのわけを想像し、自分の考えをまとめている。

(例) のぶよの気持ちが変わったのは、お母さんとけんじの「走れ」の声が重なったのを聞いたからです。自分が2人の仲直りのきっかけをつくれたから、ビリになってもほこらしかったのです。(「走れ」東京書籍 4年上)

【おおむね満足できる状況】に十分達している児童、到達するのが難しい児童の状況を想定し、それぞれの状況に対する手だてを考えておくことが大切です。

## ポイント④ 学びを生かす

一人一人の「この本を紹介したい」「もっと読みたい」という思いや願いに応えることができるような学習環境を整えましょう。

- ・関連図書のブックリスト作成
- ・学校図書館の充実
- ・地域の図書館との連携
- ・親子読書の推奨 など

# 教師の想像力が未然防止力を高める!!!

～「チーム学校」として機能する～

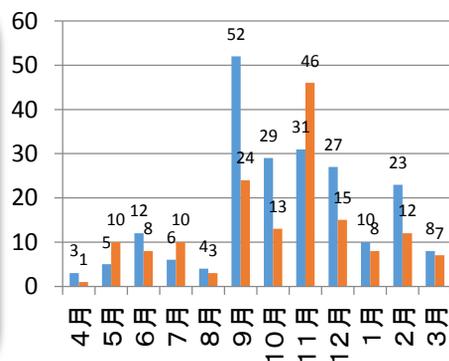


右のグラフは、昨年度文部科学省が行った「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における「いじめ」に関する調査結果から、鳥取県の状況を月別に表したものです。

1学期の緊張感が解け、お互いのことが少しわかり始めた頃にちよつとしたからかい、ちよつとしたいじわるは起こりがちであり、それに加えて行事等への取組の中で、人間関係の変化やトラブルが必ず起こるのが2学期の特徴と言えます。

子供が「いじめ」を「される側」でも「する側」でも「傍観する側」でもなく、想像力を働かせて未然防止していく集団そのものとして熟していくことが大切であり、そのために必要なのは、何よりも日常の教師自身の想像力とその活かし方(実践の事実)なのです。

月別いじめの認知件数



青：小学校 橙：中学校

次の場面でどのように対応しますか？

## 【事例】

放課後、誰もいない小学校のグラウンドに、ピンのとれた名札が落ちていました。

これを拾ったあなたは、どうしますか？



正解は・・・『次の日、担任の先生を通して、本人に返す』・・・ではないですね！

学校でよくありがちなこの事例から、どのようなことを想像しますか？

### 視点(1) 背景を考える

○放課後、なぜグラウンドに落ちていたのだろう？

- ・グラウンドで何かが起こっていた可能性はないか？
- ・ピンがとれているということは、誰かに引っ張られたのでは？等

### 視点(2) 周囲の子供たちに目を向ける

○気付いた子供は一人もいなかったのだろうか？

- ・気付いていたが名前を見てあえて拾わなかったとは考えられないか？等

### 視点(3) 子供の不安に目を向ける

○たとえ単に落とすただけ、たまたま誰も気付かなかったのだとしても

- ・子供によっては、名札がないことに気付いた時、不安を覚えたり、パニックになったり、登校の行き渋りにつながることもあるのでは？等

○落ちている名札を想像力をもって見れば上記のような『本人に返す』という対応にはならないはずですね。

### 【チーム学校として機能し成長する】

誰がこの状況に遭遇しても「あれ？おかしいのでは？」と感じ、相談することを日常化する。



「チーム学校」として、事象を多面的に捉える力が定着し、未然防止に機能する取組が充実する。

### <対応例>

- 気になる子供であれば、電話連絡や家庭訪問をする等して、保護者との連携のチャンスにする。
- 翌日(当日)の対応として、職朝等で放課後の様子を全職員に確認し、この先の対応について共通理解する。
- 担任や関係性のある教員が本人に聞き取りをして確認をする。
- (※上記のような視点があれば、児童の心の裏にある本心を引き出すための聞き取り方が可能となるはず。)
- 周囲の子供たちへの対応も、教員との信頼感や学級を育てるという視点で重要となります。
- 場合によっては、関係機関や地域との連携も必要となるケースもあるかもしれません。

☆教員一人一人が想像力を働かせ、事象を多面的に捉える視点を持ち、「チーム学校」として動くことができれば、問題行動の兆候や子供の困り感がこれまで以上に見えやすくなっていくはず。同時に、様々な対応も生まれ、子供一人一人にあった支援が充実してきます。



## 主体的に学校生活を送る子供の育成を就学前から目指す！

～より充実した幼保小の連携の実現に向けて～

10月から11月にかけて、小学校では就学時健康診断が行われます。複数園から入学してくる子供と保護者が集まるこの機会を、園ごとの特徴や気になる子供の実態、保護者の状況を把握するチャンスと捉え、積極的に活用していただきたいと考えます。

ここでは、小学校と園とが互いの課題を共有し連携を進めている取組例と成果を紹介します。

### 主体的に学校生活を送る子供の育成を目指して

#### ○早い段階での相談会の実施

「就学への不安を持つ保護者の学校見学および校長と話す機会を設けた相談会を実施しています。」

##### <工夫>

- ・訪問時、園の職員（園長、担任など）に同行してもらう。
- 保護者の不安軽減が図られる。

##### <成果>

- ・ニーズに合わせた複数回の相談が保護者との信頼関係を生む。
- ・保護者自身の直接的な校長との相談が、今後の保護者支援への手がかりになる。
- ・保護者の教育活動への積極的協力が得られる。

小学校

#### より効果の高い連携 (取組例)

聞き取り・園訪問の工夫

保護者との関係づくり

無理のない交流

#### ○子供の様子を把握する機会の充実

「園への聞き取りを就学直前と固定せず、より子供の実態を把握できる機会に園訪問しています。」

##### <工夫>

- ・園の設定した専門機関やLD等専門員との相談日に合わせて園へ出かけ情報を共有する。
- 園生活の参観からの具体的な支援を共有できる。

##### <成果>

- ・担当者ありきでなく訪問可能な職員の訪問が組織としての就学への課題意識を高める。
- ・専門家の意見を共有することでその後の対応の幅が広がる。

いずれの学校も、まず所属長同士が連絡を取り合い、目指す方向性を共有するところからスタートしています。



幼稚園等  
認定こども園  
保育所(園)

#### ○園だより・学校だよりの交換

「学校だよりを毎月届けています。互いの取組や行事を把握し、出来る範囲で子供の交流を行っています。」

##### <工夫>

- ・学習や行事に影響ない範囲で、園の散歩コースや休憩ポイントとして校庭やトイレを提供している。

##### <成果>

- ・準備がなくても長休憩に優しく関わったり、一緒に遊んだりする小学生の姿が見られる。
- ・学校のトイレを使うことで園児が小学校生活をイメージしている。

### 今行っている取組を少し見直し継続につなぐ

ある園を訪問した時、園長先生からお聞きした話です。「本園からただ一人入学した子供の保護者が、入学後の我が子への小学校全職員のかかわりに感謝されている。就学時健康診断を含めたどんな小さな連携の先にも、子供の張り切った姿や保護者の安心感があると思うと、小学校と園とが共に子供の育ちに向かってつながることの成果は大きい。」

一から新たに連携のための取組を行うと思うと苦しいですが、それぞれの学校が今行っている連携の実際を少し見直し子供の姿で検証して、主体的な学校生活につなげいく取組を無理なく継続していくことが大切です。